

(3) 自立活動の具体的指導内容

(参考例 腎疾患)

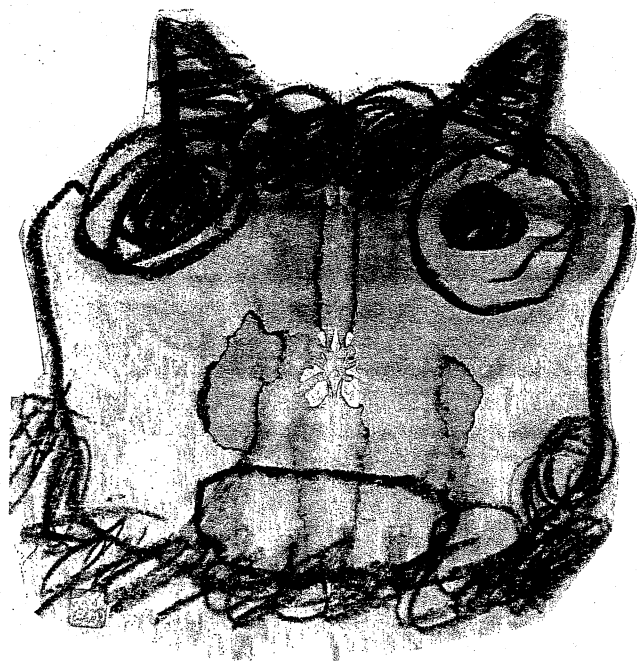
	主な指導事項	具体的な指導事項の例
1 健康の保持	(1)生活のリズムや生活習慣の形成	<p>&lt;健康状態の維持・改善に必要な生活リズムの習得&gt;</p> <p>健康状態の維持・改善に必要な生活リズムの習得</p> <p>体温調節、睡眠リズム、食事リズム、生活リズム</p> <p>生活習慣の形成、運動習慣の形成、生活リズムの形成</p> <p>生活習慣の形成、運動習慣の形成、生活リズムの形成</p> <p>生活習慣の形成、運動習慣の形成、生活リズムの形成</p>
	(2)病気の状態の理解と生活管理	<p>&lt;病気の状態の理解と生活管理&gt;</p> <p>病気の状態の理解と生活管理</p> <p>病気の状態の理解と生活管理</p> <p>病気の状態の理解と生活管理</p> <p>病気の状態の理解と生活管理</p>
	(3)損傷の状態の理解と養護	<p>&lt;損傷の状態の理解と養護&gt;</p> <p>損傷の状態の理解と養護</p> <p>損傷の状態の理解と養護</p> <p>損傷の状態の理解と養護</p>
	(4)健康状態の維持・改善	<p>&lt;健康状態の維持・改善&gt;</p> <p>健康状態の維持・改善</p> <p>健康状態の維持・改善</p> <p>健康状態の維持・改善</p>
2 心理的な安定	(1)情緒の安定	<p>&lt;情緒の安定&gt;</p> <p>情緒の安定</p> <p>情緒の安定</p> <p>情緒の安定</p>
	(2)対人関係の形成の基礎	<p>&lt;対人関係の形成の基礎&gt;</p> <p>対人関係の形成の基礎</p> <p>対人関係の形成の基礎</p> <p>対人関係の形成の基礎</p>
	(3)状況の変化への適切な対応	<p>&lt;状況の変化への適切な対応&gt;</p> <p>状況の変化への適切な対応</p> <p>状況の変化への適切な対応</p> <p>状況の変化への適切な対応</p>
	(4)障害に基づく種々の困難を改善する意欲の向上	<p>&lt;障害に基づく種々の困難を改善する意欲の向上&gt;</p> <p>障害に基づく種々の困難を改善する意欲の向上</p> <p>障害に基づく種々の困難を改善する意欲の向上</p> <p>障害に基づく種々の困難を改善する意欲の向上</p>

※ なお、富士見養護学校では、児童生徒の教育相談も行っている。教師の指導法に対する支援にも積極的に対応しているので、今後、小・中学校とおおいに連携を図ることができる教育機関である。



〈玉諸小児童作品〉

(中学校)



〈北西中生徒作品〉

# ① 知的障害の子どもの場合

## 学校生活実態表

〇〇中学校 〇〇学級 1年 氏名 〇〇〇〇(男)	記入者 〇〇〇〇
生年月日 略	家族構成 略
障害状況 ダウン症、知的障害(中度)	
項目	実態(本人の興味・関心を含む)
①着脱	・時間はかかるが、ほとんど自分でできる。まだ制服の一番上のボタンまではかけられない。
②食事	・好き嫌いがなく何でも食べる。箸で食べられるが、こぼすこともある。
③排泄	・ほとんど問題ないが、小便で体着の時、ズボンを全部おろしてしまいうことも多い。
④清潔習慣	・手洗いや、指示すればやるが、自分から進んで行おうとする習慣はない。
⑤物の管理	・自分の物であるという認識はある。整理整頓はできない。
⑥スケジュールの理解	・時間の概念が把握できていないので、理解できない。
⑦安全の認識	・交通安全への意識はある。その他のことに対する安全の認識はまだまだ弱い。
①健康状態	・概ね良好だが、鼻風邪をひきやすい。
②全身運動	・特に問題なし。
③手指の操作	・ある程度のことではできているが、細かい作業はできない。
④調整力	・十分とはいえないが、持久力はある。
⑤持久力	・走り方・ボール遊び等は問題ないが、縄跳びは苦手、何回も続けて飛ばすことはできない。
⑥協応動作	
①知覚的認識	・色の弁別はよくできるが、形を捉えてあてはめるようなパズルは苦手である。
②ことば	・ゆくり話せば内容はよく理解できる。構音障害があり、ものの名前を正しく発音できないため、話す・書くことについては3文字までの単語程度である。
③かず	・1〜10まで教えることはできるが、数量としての概念が身に付いていない。指を使っているの繰り上がりがない足し算はできている。
①対人関係	・子供同士の関わりは、自分から求めないし、求めることができない。大人に対しては、手に触れるなどスキンシップを求め、理屈解しない。
②集団参加	・集団での行動には抵抗はないが、集団に参加している意味は理解していない。
③コミュニケーション	・言葉以外にも、抱きつく、手を握る等の行動をとるが、相手のことを考えず一方的な表現なので、嫌がられることもある。
④興味・関心	・音楽(歌謡曲・童謡・合唱曲)を聞いたり、歌ったりすることや単純な運動(ボール遊びなど)は大好きである。
⑤情緒	・明るく楽しい生活を送っているが、自分の欲求が満たされないとパニック状態になることがある。

# 個別の指導計画

〇〇学級	1年	氏名 〇〇〇〇	記入者 〇〇〇〇
年間目標	1学級の目標	氏名 〇〇〇〇	記入者 〇〇〇〇
指導重点	・日常生活における自立をはかる。 ・コミュニケーション能力の向上をはかる。	・基本的な生活習慣の定着をはかる。 ・当番活動・係活動に積極的に参加し、多くの生徒とふれあう。 ・学年・学級行事の機会を利用して、多くの生徒とふれあう。 ・市内特殊学級林間学校の活動に積極的に参加し、多くの生徒とふれあう。	評価 今後の課題 生活面では給食当番のように必要に迫られたことについては常に進んで取り組むが、学習面では、30分の集中がやむという状況である。集中して学習していく中で、コミュニケーション能力を一層伸ばしてやってほしい。
保護者の希望	・日常生活のいろいろな場面で、自立できるようにしてほしい。 ・集団の中で、多くの人とふれあひ、共に行動していきたくてほしい。	・保護者の評価 家に「ただいま」と大声で言うて帰ってきた姿を見て、成長したんだなと感じた。今後も長い目で成長を見守ってやってほしいと思う。	
教科領域	指導のめあて	指導の手立て	活動の様子・評価
〇基本的な生活習慣	・日常のあいさつをしつかりしよう。 「はい」という返事をしつかりしよう。 ・交流学級の朝の会・授業に参加する。 ・チャイムが鳴ったら席に着こう。 ・体育着の時は、トイレで履き替えてから授業に参加しよう。	・「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」の挨拶を教える。 ・授業開始・終了時などその都度しつかり言わせる。 ・学校生活のいろいろな場面で、理解できたという意思表示をさせるために、その都度しつかり言わせる。 ・最初は付き添って、交流学級の方に慣れる。 ・時間を守ることを意識づけるために、チャイムが鳴ったら席に着くことを習慣化させる。 ・体育着の時は、トイレで履き替えてから授業に参加しよう。	・「おはようございます」「さようなら」はよくできるが、その時々によって、できるときとできないときがある。 ・機嫌のいいときはできるが、そうでないときはできない。叱られたときに素直に「はい」と言えない。 ・交流学級にも慣れ、指示すれば一人で行動できるようになった。 ・その都度注意しているが、休み時間との切り替えができて、チャイムで着席することがなかなかできていない。 ・普通道でできるときと、上手にできず失敗してしまふこともあった。 ・甘えていて泣くこともあるが、ポタポタの最上部以外には時間をかければほめることができる。 ・健康観察簿、給食当番は言われなくても進んで行っている。 ・水をやりに行くことが原因なのか、言わないとできない。 ・給食当番の活動はすぐに覚え、毎日言われなくてもきちんとできている。 ・毎日やるという習慣はあるのだが、掃除のやり方を覚えることがなかなかできていない。同じ指導の繰り返しの日々を送っている。
日常生活	・与えられた活動を進んで行おう。 ・学級の花に毎日水やりしよう。 ・給食当番の仕事とやらう。 ・毎日の掃除をきちんとやらう。	・日直、健康観察簿、黒板消し、給食当番などの与えられた活動を進んで行おう。 ・日直の仕事の一つとして毎日欠かさず花の水やりをさせる。 ・最初は教師と一緒に活動し、徐々に一人で活動できるようにさせていく。 ・生徒と共に活動しながら、最初は教師が手本を演じて、徐々に清掃の仕方を覚えるよう指導していく。	
交通安全	・交通安全を守って登下校しよう。	・交通安全を守って登下校しよう。	・始めのうちは、親や教師が付き添って登下校させるが、学校周辺を教養する中で、交通安全を自然と身につけていく。

生活単元学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の嫌がること(さわったり、抱きついたり、つっついたりすることなど)を防止するために、演技を交えて指導していく。</li> <li>お金の種類、お金によるものの売買を教える。</li> <li>家や学校の周りにある草花や小動物に関心をもち、お話を聞かせる。</li> <li>家の周りや学校の周りにあるもの(お店、公共の建物など)の役割を知ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時刻・時間 (11時～12時、1時30分～12時30分がわかる)</li> <li>暦 (昨日、今日、明日、昨日、曜日、曜日がわかる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計の教員を使い、教師が示した時間をはっきり言わせたり、教員に指示した時間を操作させたりする。</li> <li>毎朝、黒板に日付・曜日を書かせる。</li> <li>朝の会、帰りの会の中でその日の月、日、曜日を確認させる。</li> <li>授業の日をもとに昨日、今日、明日、曜日について言わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した時は、ほぼ間違えずに時刻を言うことができるが、時がでなく言えなくなってしまうので、繰り返し学習を繰り返していききたい。</li> <li>教師の書く日課を見て、その日の日付や曜日を書くことができる。しかし、それがないと書けない。曜日について、時間間隔をほぼ覚えてきたので、だいたい間違えずに言うことができるようになった。</li> </ul>	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取りやすいように、わかりやすい言葉でゆっくりと話してやる。</li> <li>「いつ」「どこへ」「誰と」「何を」などの言葉を投げかけたりしながら、話しやすい雰囲気を作ったりする。</li> <li>教材にある平仮名・カタカナ・漢字を使った単語や簡単な文を、はつきりと正確に読めるまで、何度も繰り返し読ませる。</li> <li>教師の後に続いて読みを言わせる方法で、簡単な文はつきりと読めるまで、何度も繰り返し読ませる。</li> <li>最初は手本を見せながら、読みながら単語や短文を書かせる。</li> <li>単語をゆっくりと読み、聞き取りながら書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケサラ</li> <li>こげまやい</li> <li>飛行船</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任の指導のもと、生徒からの細かい指示を与えながら授業の進め方を進める。</li> <li>実技場面では、交流学級の生徒と交わることを大切にしたい。</li> <li>合理的練習は、朝の会や帰りの会の中で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科担任の指導のもと、生徒からの細かい指示を与えながら授業の進め方を進める。</li> <li>実技場面では、交流学級の生徒と交わることを大切にしたい。</li> <li>合理的練習は、朝の会や帰りの会の中で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌を歌った時、体を動かしたりすることが好きなので、音楽の授業には熱心に取り組んでいる。合唱では、発声はほとんど暖みであるが、大きな声を出して一生懸命歌っている。ここでも、集団での交わり方を少しずつ身につけていこうとしている。</li> </ul>
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取りやすいように、わかりやすい言葉でゆっくりと話してやる。</li> <li>「いつ」「どこへ」「誰と」「何を」などの言葉を投げかけたりしながら、話しやすい雰囲気を作ったりする。</li> <li>教材にある平仮名・カタカナ・漢字を使った単語や簡単な文を、はつきりと正確に読めるまで、何度も繰り返し読ませる。</li> <li>教師の後に続いて読みを言わせる方法で、簡単な文はつきりと読めるまで、何度も繰り返し読ませる。</li> <li>最初は手本を見せながら、読みながら単語や短文を書かせる。</li> <li>単語をゆっくりと読み、聞き取りながら書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) について、事前にルールを説明や個別の練習を行う。</li> <li>当日は、交流学級のチームの側につき、指示を与えながら参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) について、事前にルールを説明や個別の練習を行う。</li> <li>当日は、交流学級のチームの側につき、指示を与えながら参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に個別練習を行って、ドッジボールのルールがわからない状態での参加になってしまった。しかし、交流学級の一人として最後まで参加することできたので、成果はあったと思う。</li> </ul>
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取りやすいように、わかりやすい言葉でゆっくりと話してやる。</li> <li>「いつ」「どこへ」「誰と」「何を」などの言葉を投げかけたりしながら、話しやすい雰囲気を作ったりする。</li> <li>教材にある平仮名・カタカナ・漢字を使った単語や簡単な文を、はつきりと正確に読めるまで、何度も繰り返し読ませる。</li> <li>教師の後に続いて読みを言わせる方法で、簡単な文はつきりと読めるまで、何度も繰り返し読ませる。</li> <li>最初は手本を見せながら、読みながら単語や短文を書かせる。</li> <li>単語をゆっくりと読み、聞き取りながら書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) について、事前にルールを説明や個別の練習を行う。</li> <li>当日は、交流学級のチームの側につき、指示を与えながら参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) について、事前にルールを説明や個別の練習を行う。</li> <li>当日は、交流学級のチームの側につき、指示を与えながら参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年レクレーション (ドッジボール) について、事前にルールを説明や個別の練習を行う。</li> <li>当日は、交流学級のチームの側につき、指示を与えながら参加させる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～100までの数の大小がわかる。</li> <li>計算 (1～10までの繰り上げの足し算、繰り下げの引き算) がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～100までの数の大小がわかる。</li> <li>計算 (1～10までの繰り上げの足し算、繰り下げの引き算) がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親に送り迎えしてもらい、迎えの時にその日の学校の様子を話している。</li> <li>毎日連絡帳を使い、学校からの家庭への連絡、家庭からの学校への連絡を行っている。</li> <li>母親とは携帯電話を通じて頻りに連絡をとっている。</li> <li>何かあった時に備え、母親の連絡先や父親の連絡先に電話で連絡すれば、緊急に対応できる態勢をとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内交流会 (4/30) 市内特殊学級訪問学校 (7/3～4)</li> <li>英語・国語・社会は、交流学級で教時間担任の授業を、学級の生徒と一緒に受けている。</li> <li>毎日、平仮名・カタカナ・数字 (1～100)・漢字 (小2まで) の書き取りを家庭学習として宿題に出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内交流会 (4/30) 市内特殊学級訪問学校 (7/3～4)</li> <li>英語・国語・社会は、交流学級で教時間担任の授業を、学級の生徒と一緒に受けている。</li> <li>毎日、平仮名・カタカナ・数字 (1～100)・漢字 (小2まで) の書き取りを家庭学習として宿題に出している。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～100までの数の大小がわかる。</li> <li>計算 (1～10までの繰り上げの足し算、繰り下げの引き算) がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1～100までの数の大小がわかる。</li> <li>計算 (1～10までの繰り上げの足し算、繰り下げの引き算) がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親に送り迎えしてもらい、迎えの時にその日の学校の様子を話している。</li> <li>毎日連絡帳を使い、学校からの家庭への連絡、家庭からの学校への連絡を行っている。</li> <li>母親とは携帯電話を通じて頻りに連絡をとっている。</li> <li>何かあった時に備え、母親の連絡先や父親の連絡先に電話で連絡すれば、緊急に対応できる態勢をとっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内交流会 (4/30) 市内特殊学級訪問学校 (7/3～4)</li> <li>英語・国語・社会は、交流学級で教時間担任の授業を、学級の生徒と一緒に受けている。</li> <li>毎日、平仮名・カタカナ・数字 (1～100)・漢字 (小2まで) の書き取りを家庭学習として宿題に出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内交流会 (4/30) 市内特殊学級訪問学校 (7/3～4)</li> <li>英語・国語・社会は、交流学級で教時間担任の授業を、学級の生徒と一緒に受けている。</li> <li>毎日、平仮名・カタカナ・数字 (1～100)・漢字 (小2まで) の書き取りを家庭学習として宿題に出している。</li> </ul>

## ② 知的障害（重度）の子どもの場合

### 学校生活実態表

〇〇中学校 2年 〇〇〇〇(女)	記入者	〇〇 〇〇
生年月日	略	略
障害状況	知的障害(重度)・てんかん発作	家族構成
項目	実態(本人の興味・関心を含む)	
①着脱	万歳して"ここの足上げて"等声掛けや手で触れながらの指示があれば介助の下でできる。	
②食事	好き嫌いはほとんどなくたくさん食べられる。右手で物を支えることは難しいが、声掛けで左手にスプーンやフォークを持ち食べることができている。	
③排泄	他のことに夢中になって失敗してしまうことがある。トイレサインの出るときもあがあるが全体に介助が必要。スプーンや下着を上げることはできる。	
④清潔習慣	よだれが出るのでペーパーナプキンをつけている。手洗いは手を添えて介助が必要。洗顔は嫌がる。	
⑤物の管理	自分の物は分かっている。声掛けがあると持ってくる。片づけは難しい。	
⑥ががのり	一日の大まかな流れは理解できているが、短時間での移動や急な変更は難しい。	
⑦安全の認識	手をつないでいると頼ってしまうが、一人で行動している時は注意深く、慎重に行動する。	
①健康状態	良好。身長・体重共に大きく成長している。虫歯0。	
②全身運動	てんかんの薬のせいか歩行が不安定になる時もある。目標を見定めるとまっしぐらに走る。はう。	
③手指の操作	指先を使うことが苦手。スライツを一緒に押してしまうが、機械操作に興味がある。	
④調整力	一人で行動している時は、段差でもうまくバランスをとることができている。	
⑤持久力	特に問題はなく体力的にも丈夫で、長時間の活動を耐えられる。跳ねることが多い。	
⑥協応動作	手足の協応動作は苦手であるが、時折他人の動作を見てまねようとする。跳ねることが多い。	
①認知	色の弁別が少しずつできるようになり、クレヨン等も色々な色を選べるようになる。描くようになってきた。	
②ことば	た。好きな食べ物・果物は形等を記憶することができた。	
③かず	「いた」と発音している。相手の話す内容(具体的指示的な事柄)はよく理解している。発音も多くなり、言葉のサインも持っている。有意味語の発音は多いと思われ、数を教えることは難しいが、数や量の大きさを多さは具体物においては理解している。	
①対人関係	人なつこく自分から関係を求めて抱きついていく。列子より大人との関係を好むところもあるが、最近自分から友達との輪の中に入ることが多いが、少しづつ慣れてきている。	
②集団参加	全校集会や学年集会や学芸会等に参加している。自分から参加したいところがある。合奏では積極的に参加している。	
③コミュニケーション	友達との顔を折っての挨拶等優しい表現をする。指さして欲しい物がある。時々人や物を引張って自分の所に持ってきて(そばに来て欲しくて)誤解を受ける。	
④興味・関心	体を激しく揺すったり、影を追いかけてたり竹箒を持って走り回ったり、水で遊ぶのが好き。モーターの音が好きで、ドライヤーや掃除機等上手に扱う。たいてい音が音が出る物、ピアノ、スピーカー等音や音楽が大好き。	
⑤情緒	明るく素直で優しい性格。自分の欲求が満たされないと床にはいづつぐらうぐらうと泣いたり、階段の手すりにつかまったりすることが多い。優しく友達の手を握ることもよくある。また、音楽や表現活動、絵本の読み聞かせ、では母親に叱られた兄のそばに行きいい子いい子をして慰めそばに寄り添って眠ったことのあること。	

#### 個別の指導計画作成について

知的障害(重度)の生徒なので、日常生活面や生活単元学習の部分を大きくとって、活動を細かく見直し、活動が習慣化して定着するようにと考えた。また、音楽や表現活動、絵本の読み聞かせ、調理学習が好きな生徒なので、関心のあることをききつけてそこから活動が広がっていくように配慮した。

〇〇中学校	2年	氏名	〇〇 〇〇	記入者	〇〇 〇〇
指導重点	年間目標 ・本人にとっても最も分かりやすいコミュニケーションの方法で、自分の要求を伝えることができる。 ・相手の指示を理解する力を育てる。 ・自分のことは自分で行う気持ちを持つ。 ・自分のことのために技術を身につける。	学期の目標 ・合唱集会に友達と一緒に楽しく参加できる。 ・友達や先生と顔を見合せてあいさつをかわすことができる。 ・トイレサインを出すことができる。 ・給食の準備を担任と一緒にすることができる。	評面 今後の課題 ・合唱活動を仲間と共に楽しむことができ、仲間にもよめるが、集会等にも落ち着いて参加できることが多くなった。2学期の合唱祭へつなげていきたい。 ・友達と遊んでみたいとトイレサインを忘れてしまい失敗してしまっている。 ・給食の引き出しが分かってスプーンやフォークを自分で出して水をくみに行くことができた。スプーンやフォークを並べられるようにしたい。	保護者の希望 ・本人が一人でできることは限られているが、自分でできることはほめてほしい。 ・てんかんの薬の減量や発作の有無にもよるが、学校では眠らないようにしてほしい。 ・火には近づかないが、"熱い"ものは危険だということをは是非理解させたい。	保護者の評価 ・一人学級で仲間がいなくても気にはなるが、その分本人が活動しなくてはならない場面が増えることにもなっている。 ・校外での交流も勉強にはなるが、校内での交流を深めて友達との内面的な関わりがもたらうれしい。
教科領域	指導内容	指導の手だて	活動の様子・評価		
①食事	自分でスプーンやフォークを持って楽しく食べることができるようになる。 ・トイレでスプーンの上げ下げができる。 ・トイレに行きたくなくなったら、サインを出す。 ・上・下履きを自分で脱いだり履いたりできる。 ・手洗いが自分でできる。	・左利き用のスプーンやフォークを用意して、手を使わずに食べられるようにする。 ・声掛けをしながら一緒に手を取ってスプーンの上げ下げを行う。 ・サインが出たときにはすぐにトイレに行くようにして定着させる。 ・声掛けをしながらか一緒に手を添えて靴を履き替える。 ・トイレの後や給食前には手を添えて一緒に洗う。 ・トイレットペーパーを自分で拭く。 ・ガスのレンジやフライパンの中は熱くて危険だとわかる。 ・オモチャを使って遊ぶ。	・スプーンですくむことはできるがフォークで刺すことは難しい。右手をテーブルの上まで持ってくるようになってきた。 ・トイレの後スプーンを上げることはできるが下げることは難しい。 ・トイレサインが出て、必ずしもトイレではなく、その場を逃れたいときにサインを出すこともある。 ・靴の中に入ると足を入れようとする。下駄箱に脱いだ靴をしまおうとする。 ・水道場へ行くとき自分で水をひねり出すことができる。石けんを使うこともできる。ハシカチの出し入れを自分でできるようになる。 ・フライパンの中に入っている食べ物には手が出してしまおう。 ・オモチャを投げることは減り、ゼンマイ仕掛けや音の出る物、ぬいぐるみなどにも興味が出てきた。 ・声掛けがあるとサインが出るが、そうでないといついつい手が先に出てしまう。 ・箸や掃除機を使い友達と楽しくおしゃべりしながら掃除機がけができた。 ・時々味見をしながらも手で野菜などを小さくしたり、木杓子で材料をかき混ぜたり、椅子を運んだり、洗った物を一緒に運んだ。 ・道順にも慣れてカートを押して店内を静かに歩くことができる。 ・自分で半分シャワーをし、半分は花や野菜を自分で水をかけられるようになってきた。 ・電話が鳴ると自分で受話器を取ろうとするが、電話が鳴らなくなると受話器を取って遊んでしまう。		
②排泄					
③着脱					
④清潔習慣					
⑤安全の認識					
⑥遊び・交際					
⑦役割・手伝い・仕事					
⑧金銭					
⑨自然					



③ 情緒障害の子どもの場合

学校生活実態表

〇〇 中学校 〇〇 学級 氏名 〇〇〇〇 (男) 記入者 〇〇〇〇	
生年月日	略
障害状況	コミュニケーション障害、(LD)が疑われる
項目	実態 (本人の興味・関心を含む)
① 着脱	・衣服の着脱は完全にできるが、靴のひもなどは先手の不器用さから支援が必要である。
② 食事	・偏食がある。そのため食べ残すことが多い。時間を気にして常に何かか追いまわられているような食べ方である。
③ 清潔習慣	・他の人に体を触られるのを嫌がり、触られるとその部分を何回もなめている。1年中長袖の衣服で過ごしている。
④ 物の管理	・ほぼ決められた位置に置くが、教師が指示しないかぎり整理整頓はしない。
⑤ スケジュールの理解	・理解できて行動できるが、常に時間にこだわり、同じパターンで行動している。
① 健康状態	・良好であるが、やや肥満傾向にある。
② 全身運動	・特に問題なし。
③ 手指の操作	・指先を使うことが苦手なため、ハサミを使って切ること、紙を貼るなど工作が上手にできない。
④ 調整力	・特に問題なし。
⑤ 持久力	・持久力に欠ける。動きがこごちなく体が硬い。
⑥ 協応動作	・全体的に苦手傾向にある。運動能力は低くこごちない動きが多い。
① 視知覚的認知	・特に問題ないと思われるが、形をとらえて絵に描くことが非常に苦手である。
② ことば	・加減乗除はだいたい3桁位までできる。
③ 数	・
① 対人関係	・子ども同士の関わりを求めようとして、むしろ孤独を好んでいるような様子である。
② 集団参加	・集団にうまく溶けようとして、自分から離れてしまうことが多い。
③ コミュニケーション	・他の人の気持ちを察知することが多い。場が難しいため、場が合わなかつたり、トラブルの原因になる言葉や態度を言うことがある。
④ 興味・関心	・テニスが大好きで毎日している。興味・関心を示す内容は、その多くがテレビゲームに集中してしまっている。
⑤ 情緒	・特に不安定ではないが、自分の思うようにならないとパニック的になったり、泣いたり怒りをあらわにする。

個別の指導計画作成について

該当する生徒は、障害に関しては情緒障害を伴う知的障害であるが、知的障害は、かなり軽度で、情緒的な障害、すなわち人との関わりが持てないコミュニケーションの障害である。また、自閉的な傾向もあり、それが生活面だけでなく学習面においても本人と関わり、あるいは行動規範をいくつかの中核として、基に指導することを図る。このように生徒に対し、生活・学習面においてどのような支援をしていくか、日々の生活の中で、日頃からの指導だけでなく、音楽・体育・美術は交流学習で行っているため、授業を通して多くの先生方に関わっていただいているので、個別の指導計画もそれらの先生方にも御協力をいただきたき作成することになった。

国語・数学・理科・社会とという4教科に関しては小学校での学習の遅れの状況を把握し、何をどのくらい指導していくかを、指導内容と指導方法を考えた。最初には小学校の学習内容の再確認から取り組み、それらを補充・発展させていき、本人の学習状況を見ながら教科によって中学校の段階へと移行していく方向で検討していくことにした。

それ以外の技能4教科については、中学校での学習内容であるため、理解できないことも多々あるが、交流することを第一として進めたい。また、その中で本人の障害を支援していくことに重点を置いた指導のあり方を模索しようとした。

実際的には、本人の状況を十分に理解・把握できないまま作成段階に入った部分も多々あるが、指導計画である。今後は、学期ごと生徒の成長・発達に合わせた指導計画を作成することが必要であると感じている。また、特別支援を必要とする生徒については、必要に応じて専門の関係機関とも連携をし、指導を仰ぎながら、より適切な支援ができる体制の中で内容を検討したいと考えている。

年	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
学期	第1学期		第2学期		第3学期		第4学期		第1学期		第2学期	
氏名	〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇	
指導	<p>・生活のより完全な自立を図る。</p> <p>・学習面での自立を図る。</p> <p>・多くの生徒との交流を図り、相互に社会性を身に付けようとする。</p>		<p>・学期の目標</p> <p>・自分でできることは自分で学習習慣を身に付ける。</p> <p>・意欲的に授業に参加し、家庭学習ができるようになる。</p> <p>・交流授業や行事などを通して、多くの生徒と交流を持つ。</p>		<p>・保護者の希望</p> <p>・小学校に引き続き、交流を多く持たせたい。学習の遅れを少しずつ取り戻させたい。</p>		<p>・記入者(〇〇〇〇)</p> <p>・今後の課題</p> <p>・身辺自立はできていないが、できることをし、身辺自立はできている。</p> <p>・交流授業に参加し、意欲的に授業に参加し、自分から多くは多くは多いことを期待している。</p>		<p>・保護者の評価</p> <p>・保護者が何を望んでいるか、学校が楽しいかどうか、それが何よりだ。</p>		<p>・活動の様子・評価</p> <p>・すでになれた様子で、スムーズに行えた。</p> <p>・初めての経験と、時刻の見方などを知ることで、時刻の読み方などを知ることができた。</p> <p>・石和温泉駅まで行くことを想定し、バス、電車の行き先、時刻の読み方などを知ることができた。</p> <p>・知っていることを、意欲的に学習して、意欲的に取り組むことができた。</p> <p>・「ゴミ」という言葉が、興味関心を持って、意欲的に学習して、意欲的に取り組むことができた。</p> <p>・「ゴミ」という言葉が、興味関心を持って、意欲的に学習して、意欲的に取り組むことができた。</p>	
教科	生活		生活		生活		生活		生活		生活	
単元	① 健康の維持		② 自然の観察		③ 交通機関の利用		④ 身近な社会を知る		⑤ 調理の練習		⑥ 自然の観察	
学習	<p>・指図の手だて</p> <p>・3種類の野菜の苗を植え、水やり観察、草取り、収穫などを行う。</p> <p>・目的地への交通手段、時刻表の見方を覚える。</p> <p>・それぞれが何を言わなければならないかを覚える。</p> <p>・調理の練習</p> <p>・調理の練習</p>		<p>・指図の手だて</p> <p>・3種類の野菜の苗を植え、水やり観察、草取り、収穫などを行う。</p> <p>・目的地への交通手段、時刻表の見方を覚える。</p> <p>・それぞれが何を言わなければならないかを覚える。</p> <p>・調理の練習</p> <p>・調理の練習</p>		<p>・指図の手だて</p> <p>・3種類の野菜の苗を植え、水やり観察、草取り、収穫などを行う。</p> <p>・目的地への交通手段、時刻表の見方を覚える。</p> <p>・それぞれが何を言わなければならないかを覚える。</p> <p>・調理の練習</p> <p>・調理の練習</p>		<p>・指図の手だて</p> <p>・3種類の野菜の苗を植え、水やり観察、草取り、収穫などを行う。</p> <p>・目的地への交通手段、時刻表の見方を覚える。</p> <p>・それぞれが何を言わなければならないかを覚える。</p> <p>・調理の練習</p> <p>・調理の練習</p>		<p>・指図の手だて</p> <p>・3種類の野菜の苗を植え、水やり観察、草取り、収穫などを行う。</p> <p>・目的地への交通手段、時刻表の見方を覚える。</p> <p>・それぞれが何を言わなければならないかを覚える。</p> <p>・調理の練習</p> <p>・調理の練習</p>		<p>・指図の手だて</p> <p>・3種類の野菜の苗を植え、水やり観察、草取り、収穫などを行う。</p> <p>・目的地への交通手段、時刻表の見方を覚える。</p> <p>・それぞれが何を言わなければならないかを覚える。</p> <p>・調理の練習</p> <p>・調理の練習</p>	
国語	<p>① 書く力を身につける</p> <p>・中学校1年の教科書で文章の書き方</p> <p>・練習</p> <p>・様々な題材で作文</p>		<p>① 書く力を身につける</p> <p>・中学校1年の教科書で文章の書き方</p> <p>・練習</p> <p>・様々な題材で作文</p>		<p>① 書く力を身につける</p> <p>・中学校1年の教科書で文章の書き方</p> <p>・練習</p> <p>・様々な題材で作文</p>		<p>① 書く力を身につける</p> <p>・中学校1年の教科書で文章の書き方</p> <p>・練習</p> <p>・様々な題材で作文</p>		<p>① 書く力を身につける</p> <p>・中学校1年の教科書で文章の書き方</p> <p>・練習</p> <p>・様々な題材で作文</p>		<p>① 書く力を身につける</p> <p>・中学校1年の教科書で文章の書き方</p> <p>・練習</p> <p>・様々な題材で作文</p>	
算数	<p>・ひらがなを漢字に直す。</p> <p>・算数の知識を身に付ける</p> <p>・算数の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・ひらがなを漢字に直す。</p> <p>・算数の知識を身に付ける</p> <p>・算数の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・ひらがなを漢字に直す。</p> <p>・算数の知識を身に付ける</p> <p>・算数の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・ひらがなを漢字に直す。</p> <p>・算数の知識を身に付ける</p> <p>・算数の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・ひらがなを漢字に直す。</p> <p>・算数の知識を身に付ける</p> <p>・算数の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・ひらがなを漢字に直す。</p> <p>・算数の知識を身に付ける</p> <p>・算数の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>	
理科	<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>	
英語	<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>	
道徳	<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>	
総合	<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>		<p>・中学校レベルの文章を音読</p> <p>・読書</p>	
体育	<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>		<p>① 計算力を高める</p> <p>・小学校の範囲の計算</p> <p>・算数の知識</p> <p>・読書</p>	
芸術	<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>	
特別支援	<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>		<p>・道徳の知識を身に付ける</p> <p>・道徳の意味と活用</p> <p>・小学校レベルの漢字の習得</p>	





### 3 授業実践例

#### ① 小学校

すみれ学級生活単元学習学習指導案

甲府市立玉諸小学校 宮本順子

#### 1 はじめに

本校特殊学級（すみれ学級）は、知的障害特殊学級（1組）と肢体不自由特殊学級（2組）からなります。在籍児童は、1組7名（4年生6名、6年生1名）2組1名（2年生）です。両学級児童は生活単元学習を中心にいろいろな活動と一緒にします。そして、8人のお友だちで次の様な目標をもって本年度をスタートしました。

○ みんなで力を合わせてすみれ学級をつくろう。

～一人ひとりがクラスの大切なお友だちだよ。みんなが輪になって歩む日をめざして～

1学期は、すみれ学級の児童一人ひとりが自分のしたいことを考えたりお友だちのすることを見たりして一緒に行動や活動ができる様に、「学級の土台づくり」をしました。それには次の様な3つのめあてをもって、すみれ学級のお友だちみんなが力を合わせる活動の場づくりをしました。

- ・ みんなで力を合わせてつくる。
- ・ みんなで力を合わせて育てる。
- ・ みんなで力を合わせて生活する。

一人で行動しても「お友だちもいるんだよ。」「お友だちも一緒だよ。」とお友だちを意識し受け入れて活動したり、共同生活やお友だちと一緒に活動でもお友だちとの関わりの中で自分の行動を見つけたり決めたりする体験は、すみれ学級児童の心の中に「お友だちとしたい。」「みんなでやろう。」という気持ちを育てていきました。日常の行動はまだまだ「3つのめあて」から遠く感じられることもありますが、学習や活動がすみれ学級児童にとって楽しい場になり「次は何をするのかな。」「今度はこんなことをしたい。」と思ひ合える場になってきたことは、意欲や行動力を生んでいったと思います。「2学期になったらみんなで劇をしようか。」と投げかけるとみんなの顔が輝き、知っているお話の中から「ブレーメンのおんがくたい」をしようと思ひ決めて、「ぼくは〇〇がいい。」「わたしは〇〇をしたい。」「〇〇くんは〇〇がいいよ。」など、みんなの思いや考えも活発に飛び出してきました。

2 単元名 「わたしたちの劇をつくろう。

～わたしたちの「ブレーメンのおんがくたい」～

#### 3 単元設定の理由

まずなぜ「劇」に取り組むことにしたかということです。

すみれ学級の児童は本が好きです。年度当初ほとんど着席していることができなかった4年生ですが、本や紙芝居を読んでもらうことやお話を聞かせてもらうことは好きでした。図書館や学級文庫の本も楽しそうに開いて見ていました。しかし、自分で本を見ることは長続きせず、自分の好きなページや絵だけ見たりばらばらページをめくって見たりする程度でした。1学期に平仮名の学習に取り組む中で、生活の中でも平仮名に興味をもつ機会をつくってきました。まだ自分で平仮名を読んだり書いたりすることが大きな課題の4年生ですが、そうした力も好きな世界を豊かに体験することから育てていきたいと思いました。それは正しく本やお話から劇をつくって自分たちの活動にすることです。

すみれ学級の児童は活動的で、何かをしたくてたまらないというエネルギーがいっぱいの様に思いました。ただ何をしたいのかどうしたいのか分からず、それぞれの児童がそれぞれに自己を表出している様に思いました。昨年度までもペープサート劇をしたり花のリースを作ったり、みんなで一つのことをする経験をしてきました。本年度も1学期の学習や活動を通して「みんなでつくる楽しさ」や「力を合わせてする大切さ」をすみれ学級ばかりでなく、連合音楽会や修学旅行など学年のお友達とも体験し学んできました。2学期になって全校で運動会にも取り組みました。こうした体験を通し

て学年意識も育ってきています。「もう4年生だからできる。」「最上級の6年生としてできることをしよう。」そんな自覚をもって、すみれ学級の児童で見つけてじっくり取り組んでみたいと思いました。それには児童が主体的に活動でき（児童の興味・関心から立ち上げていくことができ）、学習や体験を生かしてつくっていくことができる劇（ただ原作を演ずるのではなく、みんなで作っていく劇）なら、児童それぞれのエネルギーが個々に輝き学級の活動としても発散されるのではないかと思います。具体物を作ったり使ったりしながら体を動かして学習や活動することは、何にも増して児童にとって分かりやすく楽しいことです。

2学期をスタートする時にもう一度、何の劇をしたいかすみれ学級の児童に問いかけてみました。どの児童も即座に「ブレーメンのおんがくたい」と答えるか「ブレーメン」と聞いて嬉しそうでした。もう児童にとっては自分たちで決めたことであり、このお話がどんなに好きなのか知らされた思いでした。動物を好きな子どもは多いです、動物が主人公や登場するお話は、同じ人間の世界のお話で展開するよりはファンタスティックで、自分もお友だちになって動きやすい世界になるのだと思います。子供が何よりも楽しいのはお友だちとの世界でしょうし、すみれ学級の児童にとっても同じです。それに加えてすみれ学級の児童は、家で猫を何匹も飼っていたり犬を飼っていたり、ねずみが大好きで鳴きまねが上手だったり、生活の中に動物が親近感をもって存在しています。そうした日常との関わりで、自分たちをお話の世界に投入してもいました。

2学期の学習や活動の中心となる本単元の取り組みを通して、すみれ学級児童の一人ひとりがもっとも「3つのねらい」の実現を自分のもの、みんなのものにしてほしいと思います。この様な願いをもって、本単元を設定しました。

#### 4 単元の目標

- (1) 自分の好きなことや得意なことなど、自分にできることを「劇」をつくる活動の中で生かすことができる。
- (2) お友だちの好きなことや得意なことなど、お友だちにできることも「劇」をつくる活動の中で生かすことができる。
- (3) みんなで力を合わせて活動し、「わたしたちの劇「ブレーメンのおんがくたい」を発表することができる。

#### 5 単元に関わる児童の実態（省略）

#### 6 学習活動の計画

- (1) 「わたしたちの劇をつくろう」について話し合う。
  - ① どんなお話を劇にしよう。
  - ② どんな役を受け持とう。
- (2) 台本を読んで「劇」の取り組みを考える。
  - ① どんな場面で劇をつくるのかな。（登場物はどんなことをするのか。）
  - ② ねずみの登場を考えよう。（ねずみはどんなことをするのか。）
  - ③ どんな場面で劇を終わろう。（最後の場面で、登場物はどうするのか。）
  - ④ どんな大道具や小道具を作るのかな。
- (3) 「劇」に使う大道具や小道具を作る。
  - ① 「どろぼうのお家」を作ろう。
  - ② 「森の大きな木」を作ろう。
  - ③ 動物の絵カードを作ろう。
  - ④ 動物の帽子を作ろう。
  - ⑤ 他にどんな動物がいるかな。
- (4) みんなで力を合わせて「劇」をつくる。
  - ① セリフや動きを考えたり覚えたりしよう。
  - ② 合奏「キャプテン・キッド」の練習をしよう。
  - ③ 「準備・演技・片付け」の一連の流れを練習しよう。
- (5) 「劇」を発表する。
  - ① 初めての「劇」を発表しよう。（本時）
  - ② 親子活動で「劇」を発表しよう。
  - ③ 学校のお友だちにも「劇」を観てもらおう。

7 学習活動の様子 (省略)

8 本時の学習

(1) 日時 2003年11月25日 (火) 5校時 (13時55分~14時40分)

(2) 場所 玉諸小学校 すみれ学級 (すみれ教室1階)

(3) 本時のねらい (全体・個別)

(全体) みんなで力を合わせて活動し、「わたしたちの劇「ブレーメンのおんがくたい」」を発表することができる

① 準備・片付け ② 劇「ブレーメンのおんがくたい」 ③ 合奏「キャプテン・キッド」

(個別) T・I児の場合 (他の児童については省略) A・ねらい B・支援

A ① 準備や片付けをする時、お友だちに力をかすことができる。

② 自分の役割を最後までやり通すことができる。

③ 音の長さ (二分音符) を保ってメロディをひくことができる。

B ① チャイム席係りとしての役割を自覚させ、進んでできた時はその場でほめる。

② セリフを書いたカードを必要に応じて見る様にさせたり、お友だちと一緒にセリフにしたりしてセリフへの不安を少なくする。

③ 一つひとつの音が短くならない様に小さく歌う。

(4) 展開

学習活動	教師(担当)の支援	ぬいぐるみのねこやにわとりをどろぼうのお家の中に置く。小道具のナイフをベルトにはめる。	す。
<p>(各自、服装の身支度はしておく。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トイレに行った後、劇の服装になる。</li> <li>・ 脱いだ服は自分のロッカーにしまう。</li> <li>・ チャイムで着席する。</li> </ul> <p>1 学習始めの挨拶を、日直の号令です。 「これから(5校時の)生・単を始めます。」</p> <p>2 学習の準備をする。</p> <p>(1) 各自、自分の机と椅子を廊下に出す。 ・ (M・F、C・S) 二人で学習予定ボードを廊下に出す。 ・ 各自、椅子を机の上に乘せて廊下に出し、廊下の出っ張りの所に端から結んで置く。 ・ (K・F) 自分の机と椅子を教室の出入り口の壁際に寄せておく。</p> <p>(2) 各自、自分が使う楽器や小道具の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (M・F) 太鼓を箱から出して机1に置く。その後、台本を持つ。</li> <li>・ (K・A) 木琴を箱から出して机2に置く。ばちは木琴の上に乗せておく。小道具のナイフをベルトにはめる。小道具のマッチ箱とマッチ棒を黒板の下に置く。</li> <li>・ (Y・A) 楽器の準備はK・Aに同じ。机3に置く。ねずみのぬいぐるみをどろぼうのお家の中の椅子に置く。ねずみの帽子をかぶる。</li> <li>・ (T・I) 鉄琴の箱の蓋を外しておく。麻袋をどろぼうのお家の所に出しておく。ろばの帽子をかぶる。</li> <li>・ (F・K) タンバリンを箱から出して机1に置く。にわとりの帽子をかぶる。</li> <li>・ (M・I) ウッド・ブロックを袋から出して机1に置く。いぬの帽子をかぶる。</li> <li>・ (C・S) マラカスを袋から出して机1に置く。</li> </ul> <p>(5) 「第2場面」</p> <p>① ナレーターが場面を語った後、4匹の動物の前のねずみが登場する。 のねずみの案内で、4匹の動物たちは「森の大きな木」で休む。</p>	<p>男子はトイレのマナーが守れる様に支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身支度する時間は十分見休みにとって児童自身にさせ、教師(担当)はできていない部分を支援する。</li> <li>・ どろぼうのバンドナは自分で巻いたのを生かす。</li> </ul> <p>2 (1) ~ (2) T1は、児童が机と椅子を出し終わった後教室に戻って動物の帽子をピアノの蓋の上に並べておく。木のテーブルを机3の横に出す。T1が廊下で支援する間、T2が教室にいる児童の支援に当たる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T2は、タイトルの大布を「森の大きな木」の上に取り付けておく。</li> <li>・ T2はK・Fを主に、T3はF・Kを主に、T1は児童全体の準備状況を見る。</li> <li>・ 自分の準備が終わった後、M・Fが行動に戸惑っていたら、整列係りの位置に立たせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木琴や鉄琴のばちで遊ばない様に、ばちは一度決められた場所に置いたら触れない様に自分で気をつけさせる。(K・A、Y・A、T・I)</li> <li>・ Y・Aがねずみのぬいぐるみやどろぼうのお家の煙突で遊び始めたら、T・Iに声掛けをさせた上で支援する。</li> <li>・ 4年生はT・Iが中心になって落ち着いた場づくりができるように、チャイム席係りとしてのT・Iの自覚を促す。</li> <li>・ F・Kはその時の状態によって落ち着ける場に行き対応する。</li> <li>・ お友だちのお手伝いをしたい気持ちを生かす様にする。</li> <li>・ 自分から「~をしたい。」という気持ちは生かす。</li> </ul> <p>(5) ① ①どんなお話を劇にするにしても、Y・Aが唯一なりたかった役であり、お友だちもY・Aに期待する役である。Y・Aの自由でユニークなパーソナリティを、ストーリーから逸脱してしまわない中で、楽しく豊かに発揮して欲しい。また、登場して動き回るときやセリフの度にも得意の鳴き声で劇での役割をアピールしたい。</p>	<p>ぬいぐるみのねこやにわとりをどろぼうのお家の中に置く。小道具のナイフをベルトにはめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (K・F) ピアノをケースから自分の机に出す。ねこの帽子をかぶる。</li> <li>3 「わたしたちの『ブレーメンのおんがくたい』」の劇をする。</li> <li>(1) 整列して、劇の始めの挨拶をM・Fのことうでする。 「これから、ぼくたちのつくった『ブレーメンのおんがくたい』を始めます。」</li> <li>(2) 各自、自分の役の紹介をする。 「わたし(ぼく)は、〇〇〇です。~ (の役) をします。」</li> <li>(3) 各自、自分のポジションにつく。</li> <li>・ (M・F) 舞台上手のナレーターに立つ。</li> <li>・ (T・I) ナレーターの後ろの位置に麻袋を背負って立つ。</li> <li>・ (K・F) 教室の出入り口のところで待つ。</li> <li>・ (他の児童) 教室の出入り口から廊下に出て待つ。</li> </ul> <p>(4) 「第1場面」(ここから役名で記す。)</p> <p>① ナレーターが場面を語った後、ろばが麻袋を背負って登場する。 ブレーメンへ行って、町のおんがくたいに入ろうと決める。(麻袋をほおり投げて、走る。)</p> <p>② 歩いていくと、ろばはいぬに出会って誘う。(歩く度に、舞台を1周する。)</p> <p>③ ろばといぬは、ねこに出会って誘う。(ろばといぬは、歩行器に連なって歩く。)</p> <p>④ ろばといぬとねこは、めんどりに出会って誘う。(めんどりのF・Kも仲間に入って歩ける様に連なる。)</p> <p>⑤ 4匹の動物たちはブレーメンをめざして歩く。(更に、舞台を1周する。)</p>	<p>・ ねこの帽子は歩行器のK・Fが手にとりやすい様に、ピアノの一番左端に置く</p> <p>3 (1) 他の児童が整列する基準点となる様にM・Fが位置を決めたら、動かないことを意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナレーションの速さを決める出だしなので、語る速さに気をつけさせる。</li> <li>(2) 「〇〇〇」はフルネームで言い、「~」は劇の中の役名。</li> </ul> <p>(4) ① 主人のいうなりに働き続けて疲れ切ったろばを、「大きな麻袋」と「とぼと歩く姿」で表す。「ブレーメン行き」を思いついて希望をもったろばを対照的に表すのが「そうだ!」の類い一言である。とうとうやりたいことを見つけて張り切るろばの姿を、T・Iらしさで表したい。恥ずかしがりやなので、「手を打つ」動作と「麻袋を投げて突然走り出す」動作が小さくならない様にしたい。</p> <p>② ~ ④ いぬ、ねこ、めんどりは、それらの役をする児童の持ち味で登場すればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人で言うセリフが多いとT・Iの心の負担が大きくなる。その点を考えて、同じセリフの繰り返しにしたり、①の気持ち仲間を得て膨らんでいく様子で、声の調子で表せるとよい。</li> <li>・ 面は、子どもたちが役の中で、或いはお友だちの役を生かすために力を合わせる場面である。ろばといぬは、自分たちができる形で「組み立て」をする。ねこにとわりは、代わりにぬいぐるみを使うが、陰でどろぼうたちがそれを手伝う。この連携プレーをナレーターの説明に合わせて一つ一つしっかりやっていきたい。</li> </ul>

<p>② おなががすいた動物たちは、速くに家の明かりを発見する。</p> <p>(6)「第3場面」</p> <p>①ナレーターが場面を語った後、ろばたちは、どろぼうたちがごちそうを食べているのを発見する。</p> <p>②おなががすいた動物たちは、どうしたらそのごちそうが食べられるか考える。</p> <p>③ 力を合わせた動物たちは、とうとうどろぼうたちを追い払って、ごちそうを手に入れることができる。</p>	<p>・4匹の動物たちは出会った後森まで歩き、そこでのねずみに出会って「森の大きな木」まで案内してもらおう。この行程を舞台を2周して表す。森に着いたことは「タイトルの大布」を外すことで表し、「森の大きな木」に着いたことは、その前で全員座ることで表す。この行程を前半はねこが中心にまとまって歩くことで、後半はのねずみが先頭に歩くことで分かる様にしたい。</p> <p>・動物たちが「森の大きな木」で休み時、ナレーターは、動物たちが「木」に動物の絵カードを貼る動作に対応して語る様にしたい。</p> <p>②「木」の上で休んでいたにわとりとのねずみが家の明かりを発見するが、にわとりは指差して大きく動作させたい。また、音声は小さくてもセリフカードを見て読む時間はしっかりとる様にしたい。そうしたにわとりの発見を、のねずみが大きな声でセリフを言って受け止める様にしたい。</p> <p>・動物たちが「どろぼうのお家」に着いたことは「家」を舞台の中ほどに移動させて表す。移動はどろぼうたちが力を合わせて、T1が補助をする。</p> <p>(6)</p> <p>②動物たちが「家」の前で相談する様は、ナレーターが説明する。ろばの「そうだ!」という声で「第1場面」と同様に行動の転換が図られ、場面が進展する。従ってろばのこのセリフは短くだけに工夫させたい。</p> <p>③5匹の動物たちがどろぼうたちを追い払う場</p>	<p>④おなががいっぱいになって眠くなった動物たちは、「どろぼうのお家」の中に好きな場所を見つけて、思い思いに休む。</p> <p>(7)「第4場面」</p> <p>① 静かになった家の様子を探りにきたどろぼうの子分は、次から次へと休んでいた動物たちにつまずいて、世にも恐ろしい体験をする。それ以来、どろぼうたちは家に近づかなくなった。</p> <p>②だけど動物たちは、それではどろぼうたちがかわいそうだと思い、「一緒になかよくしよう。」と言ってどろぼうたちを迎えに行く。</p> <p>③なかよくなった動物たちとどろぼうたちは、力を合わせておながくたいを組む。みんなで「キャプテン・キッド」を合奏する。</p>	<p>・動物たちが窓から飛び込む場面は、ガラスの割れる音を合図にどろぼうたちも行動を起こせる様にしたい。</p> <p>④何でもない場面だが、自分なりに好きな恰好をして休むおもしろさが出る場面にしたい。ただ、いぬやねこやにわとりは、舞台の奥に下がりすぎない様に自分の位置を決めさせたい。また、次の動作がさっとできる恰好にさせたい。</p> <p>(7)①短い、ここからどろぼうたちの活躍する場面である。どろぼうの子分が「ぬき足、さし足、しのび足」と言いながら「家」に近づく場面は、何が起るのだろうという予感を、シーンとした静かさより寧ろユーモラスに伝えたかった。この後の場面も恐ろしいというより、何ともこっけいな場面である。K・Aのパーソナリティを生かすことで、場面が盛り上がる。この様な自由で大きな動作を取り入れても、K・Aの場面はめを外してしまうことはない。この場面はナレーターの説明が入らないで、どの動物役も自分なりに動作を工夫するところである。</p> <p>②～③「わたしたちがつくる」劇の最後の部分である。登場物全員がここで揃い、一つのことを力を合わせてやることに意味がある。ろばを中心に行動を進め、6年生のM・Fが劇の部分をもとめて最後の合奏にもっていきたい。</p> <p>・合奏では、児童の個別的なめあてを支援する。</p>
--	---	---	---

## 9 評価

- (1) 児童が、本単元の目標のもとにねらいにそって活動していたか。
- (2) 児童が「わたしたちの劇をつくらう。」という願いのもとに、自分やお友だちの思いや考え(ことばや行動)を生かそうとしながら活動できていたか。
- (3) 児童の活動の中で、T・Iの位置づけはどうかであったか。
- (4) 児童が「みんなでつくる劇」としての題材の選び方はどうかであったか。
- (5) 支援や手立ては適切であったか。

## 10 授業後の反省

児童は「プレーメンのおながくたい」で演じた役でお友だちと呼び合ったり、「ぼく(わたし)は〇〇だよ。」と自分の役名を生活の中で使ったり、劇の余韻はいつまでも楽しく残っていました。何より活動の中で児童の澁刺とした姿(言語・行動)が見られ様になりました。「今度は〇〇の劇をしたい。」と劇の取り組みを継続・発展する活動の中で捉えたり、他の活動でも「〇〇を作りたい。」など自分が何をしたいのかははっきりいえるようになってきたりしました。活動に対する自分の思いや考えが生まれ、声になってきました。こうした一つひとつの思いや一人ひとりの考えが「学級をつくる」エネルギーになっていくのだと思います。言語では表せない児童もその行動に周囲との関わりが見られるようになってきたり、お友だちとつくる場で自分の行動を見つけたりするようになってきました。プレッシャーに負けてしまうことが多かったT・Iも、自分から逃げては戻ることを繰り返す中に自分の力を見つけていきました。実際、劇の発表を通して児童の活動の中心に自然になっていたと思います。学級づくりはこうした児童一人ひとりの変容をどう生かして学級の力にするかだと思います。

この題材は結局3学期の活動にも発展し、新たな表現活動で児童の思いを实らせることになりました。「森の大きな木」のタイトル幕と動物の絵カードを基にしてみんなで力を合わせ、大きな版画を製作したのです。卒業するM・Fくんと大切な思い出もつくることができました。

## ②中学校 生活単元学習指導案

甲府市立南中学校情緒障害学級 雨宮瑞穂

### 1. はじめに

本校には知的障害学級と情緒障害学級の2つ特殊学級があり、それぞれに担任がいるのだが、実際には合同で行う活動が多く、学校内では適性学級『8組』という1つの集団としてイメージされ位置づけがされている。

個別の指導計画の立案は、情緒学級においては年度当初、生育歴、発達の様子、性格・行動の特徴、保護者の願いなどの多様な情報が担任の手元を集約され、これらの情報を総合・分析し、それぞれの生徒の年間目標を設定した。広い視点でとらえ、生活全般を見渡しながらか発達を促したいという願いから、年間目標は各教科での基礎的な学力の向上と、各生徒が社会参加・自立していく上でポイントとなるいくつかの領域で設定した。それを受けて、各教科担任がそれぞれの生徒の学習内容を組織し単元を構成した。その際、運営上どうしても小集団での指導となるため、一人ひとりの具体的な「学期目標」と「指導の手だて」をきちんと押さえてもらうように働きかけた。しかし、改めて一年を振り返ってみると、教科内容の指導や他の生徒の指導に追われ、残念ながら対人関係やコミュニケーションといった情緒学級の生徒の課題克服は十分にはできていないと感じている。

それは、在籍上は知的と情緒の2学級からなりそれぞれの教育課程を持つてはいるが、運営上は生徒数が少ないこともあり、より大きい集団参加ができる場を意図的に設けようと、ほとんどの授業が知的学級の生徒と一緒に小集団での指導形態となっており、「心理的適応」や「自立活動」的な内容は、日常生活の指導として主に朝の会・帰りの会や休み時間の短時間か、担任の指導教科内の場面場面で指導するか、あるいは、思い切ってそれらの授業時間を「生活単元学習」として組み替えて指導時間を確保しているのが現状だからと考える。

今回の実践は、同じ障害児教育・特殊学級教育といっても、情緒障害の子どもには情緒なりのアプローチの仕方があるはずで、情緒学級に在籍するAさん、B君の特性を踏まえながら声かけや対応に配慮し、『実社会で通用する生きる力』が身につくような指導内容や方法を授業の中に工夫した生活単元学習の授業である。

### 2. 単元名 「3年生とのお別れ会をしよう」

### 3. 単元設定の理由

卒業や進級を間近に控えた3学期は学校生活の大切な節目の時期で、8組でも今年4名の3年生が去るため、あとに残るのは各学年1名ずつの下級生2名だけになってしまう。

しかし、この下級生2名は国語の読み書きや数学の計算ができるわりには、新しい場面に対して抵抗感が強く、引っ込み思案になるなど不適応行動を示すことが多く、2学期になっても「いよいよバトンタッチだ、先輩たちに負けないようにがんばろう」とか、「人に頼らず自分でなんとかしよう」というの自覚に欠け、物足りなさを感じるものがしばしばあった。

また、二人は家庭においても一人では外出することはなく、通学も保護者の送迎によっている。そのため、社会的体験、特に自分で判断し主体的に行動する体験が乏しく、自立した社会生活を送っていく上での行動の仕方や実際的な社会参加技能が十分に身に付いていない実態がある。しかし一方で、青年期前期を迎え反抗期も現れたり、自我意識も芽生えたりして、社会生活に対する興味・関心は以前よりも大きくなってきている。

これまでは「来年は3年生がいなくなるから、しっかりしなきゃ困るよ」と言葉だけの指導をしてきたが、大した効果は見られなかった。だからといって今まで引っ張ってきてくれた3年生に対して感謝の気持ちがないかといえばそんなことはなく、彼らなりに「なんとかしなくっちゃ」という焦りが見られるのも確かである。

そこで、節目の3学期こそが彼らの課題克服の絶好機であると捉え、この下級生2名を中心に3年生とのお別れ会を計画し、その準備にじっくり取り組むことを思いついた。生活単元「3年生とのお別れ会をしよう」通して、一年間の学習のまとめをしながら、まだまだ依存的な傾向が見られる彼ら自身を見直させ、自然と進級への見通しを持たせられないかと考え、本単元を設定した。引っ込み思案の彼らも「3年生のためなら…」と、単元内で取り組む「自分で判断して自分で行動する」さまざまな活動に対しても、主体的に取り組む、頑張ることができるだろうと判断した。実践においては、次の点を大切に内容を構成していった。

#### ①動機付けの工夫

間近に迫った3年生の卒業までの限られた時間の中で、在校生としてお別れ会の準備に取り組むことで、進級への期待感や自覚を高めていく。

#### ②社会参加や自立につながる活動

社会生活における実際的な体験（外出や買い物）を準備し、自己選択、自己決定を促し、失敗や試行錯誤を経て、成功へと導く活動を設定していくこととした。

#### ③自己表現の場の設定

生徒の技能に応じて手作業やパソコン操作での活動を組み合わせ、できるだけ教師の支援が少なく生徒の力だけでプレゼントの制作に取り組ませ、途中で飽きることなく最後まで意欲的に取り組めるよう配慮した。

#### ④個別の指導計画を生かして

実際の指導場面においては、個別の指導計画を生かした、きめ細かい個別指導ができるように学習環境を整え、声かけや対応の工夫を行うようにした。

ねらい 8組の在校生として、3年生たちが築きあげた伝統を受け継ぎ、さらに発展向上させていく自覚を持たせる。

### 4. 指導計画とその展開

- ① もうすぐ3年生とお別れだね（1時間）
  - ・お世話になった3年生とももうすぐお別れ、感謝の気持ちから何か最後に喜んでもらいたいという願いをもち、どうしたら喜んでくれるか考え、話し合い、自分たちの力でお別れ会をすることを決める。いつ、どこで開くかも決める。
- ② お別れ会の準備計画を立てよう（1時間）
  - ・会の内容、招待状作り、プレゼントの用意、買い物などについて決める。
- ③ 招待状とプレゼントを作ろう（2時間）・・・本時
  - ・3年生に会のことを知らせる招待状をパソコンで作る。
  - ・プレゼントの感謝状をパソコンで、ビーズの飾りを手作業で作る。
- ④ お別れ会用のケーキやジュースの買い物の練習をしよう（2時間）・・・本時
  - ・以前みんなで行ったことのあるオギノの買い物の写真を見て、模造紙の行程図のそれぞれの場所に貼る。
  - ・買い物学習のVTRを視聴する。
  - ・横断歩道の渡り方や、買い物のシミュレーション活動をする。
- ⑤ オギノへ買い物に行こう（1時間）
  - ・二人の力だけでオギノに買い物へ行く。
- ⑥ お別れ会のリハーサル（1時間）
  - ・司会進行やあいさつの練習をしながら、会の流れを確認する。
- ⑦ お別れ会（1時間）
  - ・楽しみながら、主体的に会を運営することにより充実感や満足感を感じる。

5. 生徒の実態とねらい、支援

氏名	実態	ねらい	支援
Aさん 1年 ビーズ の飾り	日常生活に必要な身の回りのことには探動がなくなり一人だけでできる。誘われたり足されたりとみんなど一緒に動けるが、積極的に参加する方ではない。ビーズ通し等のパターン化された活動には自主的に取り組むことができる。反響言語や強いこだわりがある。トイレに行きたくない時は言葉で意思表示できる。間違いを直されると急に気持ちが不安定になり、自分の言いたいことを繰り返したり、他からの問いかけに耳をかさないことがある。さらに高じるとパニック状態になる。家族と一緒に外出することには多いが、横断歩道の渡り方など一人ではまだ危険で、近所へも一人で外出することはない。	いろんな場面で自分の気持ちを不適切な言動でなく、しっかりと表現することができる。成功感を味わいながら作業に集中して取り組むことができる。特定の言葉のフレーズを言ってもらいたがる等のこだわりを少なくする。間違いを直されても、自分の言いたいことを繰り返したり、奇声を発したり、髪の毛を引っ張り上げるパニックを引き起こさないように顔で学習に取り組む。信号をよく見て、車に注意し、マナーよく歩行する態度や判断力を養い、一人で近所に出掛けられるようになる。	仕事内容が分かりやすくなり始めると終わりがはつきりしている活動を用意し、パターンが身に付くまでは手順を教師と一緒に手を添えてやってみたり、任せたりを繰り返す。約束で1回は要求に応じることが2回目からの要求には「さっき言ったよ」と穏やかに対応する。授業に集中せず不適切な言動が出たときは、学習内容がまもらないというサインがもたらさないという別課題を行うようにする。絵や写真などのコミュニケーションの補助手段を活用し次回からの買い物学習の説明を分かりやすくして見通しを持ちやすくする。
B君 2年 パソコン での 案内状 感謝状 制作	知的には高いが困難にぶつかるとすぐに依存する傾向が見られる。情緒が安定しているときはいいが、自信が無くて学習が思うように進められない時はメンメンしたり、愚痴を言い続けたり高じるとパニックになる。コンピュータの基本操作にも関心を持ち、指示理解力もあるので、ある程度は自分で学習を進めることができる。能力的には一人で外出できそうであるが、精神的に親に依存しすぎているので、家庭では自動販売機へおつかいだけが唯一一人外出になっている。	お別れ会に向けて活動の見通しを持って積極的に取り組み、中2として取り組み、自分で考え判断し、実行する努力をする。自分の感情をうまくコントロールしながら、周囲の状況や場面を考えて落ち着いた行動がとれる。ソフトを正しく操作して案内状を作成させ、さらに感謝状制作まで進む。近所のコンビニなどで欲しい物や頼まれた物を一人で買うことができる。欲しい物を自力で探せられ、分らない時は、店員に尋ねることができ	授業に入る前に、予測できない「難しい課題をすぐに投げ出さず、最後まで頑張る」について約束し、本人の自覚を促す。もしパニックが起こったら、落ち着くのを待ち、よい点を励ますと共に、教師や周囲にどうしてほしいのか聞いてあげる。クリックや文字入力だけで案内状が作れるソフトを使いながら、完成までの全ての操作を任せず、困っている時は、教師が手伝い、励まししながら、成功に導くようにする。年齢相応の活動を準備することです、自立への欲求を満たす。

6. 本時の指導計画

- 平成16年 2月3日(火) 5校時 1:25 ~ 2:15
- 1 日時 南中学校 8組B教室
- 2 場所 ねらい
- 3 ねらい
- 4 展開
- お別れ会の案内状やプリント作りにパソコンや手作業で楽しく取り組みながら、言葉のコミュニケーションや自分で判断して自分で行動する力を養うと共に、進級への自覚を高める。

活動の内容・ねらい	授業づくりに関する
<p>教師とのやりとりで、各自の今日の制作分担を確認し、それぞれの残り数と注意点を確認する。</p> <p>活動の準備をする。環境づくり、材料や用具を用意する。</p> <p>パソコンでの案内状・感謝状制作、プレゼンターのビーズの飾りの制作へそれぞれの作業を行なう。</p> <p>二人それぞれが主体的に活動する。</p> <p>片付け、清掃をする。</p> <p>今年何度が先輩たちと一緒に行ったことのあるオギノの買い物の写真を見て、模造紙の略地図のそれぞれの場所に場面カードを貼る。</p> <p>おわりに本時のまとめを行い、次時の内容を確認し合う。</p> <p>あいさつ終了後、3年生たちに案内状を渡しに行く。</p>	<p>授業づくりに関する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師の指示に集中しているか確認。</li> <li>お別れ会のことを話題にして、意欲的に制作に取りかかれるようにする。</li> <li>制作までの流れから本時の活動内容を説明し、個別に残り数と注意点を確認する。</li> <li>声掛けで自主的に準備するように促す。</li> <li>作業終了時間を伝え、作業にはいる。</li> <li>主に教師はパソコンでの招待状や案内状制作の生徒をみながら、ビーズ飾り制作の生徒にも配慮しつつ、随時、作業の進捗や生徒に対して、声掛け・奨励などを行なう。</li> <li>案内状とプレゼンターができたので、次に準備するのはお別れ会用のキーボードやジュースの買い物であることを示し、どこへ買いに行ったらよいかを考えさせる。</li> <li>生徒たちに自由に買い物までのイメージをさせた上で、以前体験した状況を認識できているか確認し、次回からの買い物学習への課題や検討事項を明らかにする。</li> <li>今日できあがった案内状やプレゼンターを確認させ、制作の様子を思い出し、自己評価させる。その中で、技術面・態度面の向上とその努力を認め励まし、同時に次への課題を明らかにする。</li> <li>自分たちで3年生たちに案内状を渡すこととて、お別れ会の成功に向けて自信と期待感を高める。</li> </ul>
<p>できるだけ自分たちの力で案内状やプレゼンターの準備をさせ、お別れ会に向けて期待感と、進級への自覚を高める。</p>	



## 7. 評価

①「3年生のためなら...在校生としてしっかりしたい」という意欲がベースになったか。

単元の導入、教材との出会いが魅力的でないと、生徒の興味・関心がなくなり、意欲は高まらない。そこで、やる気を引き出したり、やらなければいけない場面に追い込んだり、自分の力でできるように後押ししたりする学習を展開することで、生徒たち自身の問題となり、それを解決していく中で思考力、表現力、気付きが深まり、豊かな活動へと発展するように仕組んだ。

②「自分の力で案内状やプレゼントが作れた」という成就感が味わえたか。

「できた」という成就感が生徒の活動を促進する。先生に計画してもらいお別れ会に参加するのではなく、二人で残る在校生として力を合わせてお別れ会を実施できた時、生徒は大いに満足すると思う。そこで得た自信は新たな活動の推進力となり、活動の日常化や確かさを生み出すことになると考える。

③情緒学級としての個に応じた指導が的確にできたか。

## 8. 授業後の反省

研究会では、①パニックを起こさなくても済む環境づくり、ぎりぎりでの負荷のかけ方、起こした時の問題点の改善、心のわだかまりを分かちあけるキパ-ツ的存在になること。②もっと生徒が自分でできることを信じて任せるところを増やす。③買い物や外出の指導に当たっては家庭の考えを理解しながらも自立に向けて必要なことは教師はどんどん提案していくべき等の貴重な意見、指導、助言が出された。

情緒学級においては、個別指導が非常に大切であると考え。障害の特性をきちんと理解し、本人の内面やとりまく環境の思いを理解した上で適切な指導に当たらないとこえって混乱を招くことになってしまう。私自身もAさんに対して当初は、今までの生徒と同じように指導しているのに反応もなかなかしてくれないので教えている実感が湧かなかつたり、身辺処理が非常に自立しているのにもかかわらず時折見せる強いこだわりに対して、「わざとやっているのでは？」と誤解してしまうこともあったが、行動観察に努め、障害の特性について正しい知識や適切な指導法を学習するにしたがって、その行動も納得できるようになり、指導の方針もはっきりし、今はAさんには『本人の内面の心を理解して、不適切な言動の裏にある本当の欲求をしっかりした言葉で伝えるというコミュニケーションの手段があることを分からせていく関わり方に努めると共に、本人なりに「やってよかった」と思える経験、自己実現ができるような支援を意図的に仕組みながら、将来の社会参加に繋がるようないろいろな経験をさせ、成功に導くことにより情緒の安定を図り、パニックを起こさずに、なんとなくいい顔をして学校生活が過ごせるようにしたい。』と思っている。

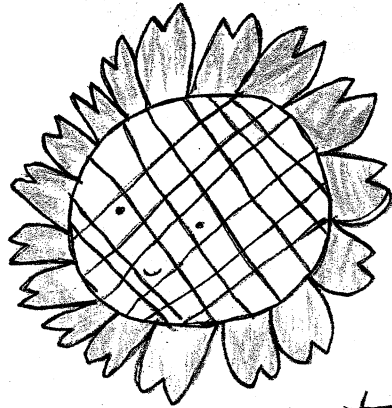
しかし現実的には、中学校における教科担任制や教育的配慮といわれる知的障害学級との合同の指導体制などから、情緒障害学級の生徒に対して一貫した指導ができないジレンマを感じている。「特殊教育」から「特別支援教育」への転換が図られている現在、障害のある生徒の支援は特殊学級担任だけのことではなくなり、全ての教師が意識改革や障害に対する正しい知識や適切な指導力を高めることが求められてきている。今後は特別支援教育に学校全体で総合的に取り組む体制づくりや対象となる全生徒の個別の指導計画の作成を進め、それを生かした個に応じた指導を全教師で的確に行っていく必要があるだろう。

また家庭との連携の面でも、生活技能というのは毎日繰り返し取り組んで、ようやく身につけるものであるから、臆病にならず積極的に外出させ、地域で生活してしていく上でのルールを身につけさせてほしいとお願いしているが、現実はなかなか進まない。学校では買い物などで校外を歩く学習をできるだけ実施するようになってきたが、個々に適したやり方を工夫して課題を解決するところまでは至っていない。生徒たちはいずれ社会で生きていく。彼らの将来の生活を考えると社会参加していく上での様々なルールを身に付けていくことは教育上重要な課題となる。

個々の特性を踏まえながら実社会で通用する生きる力が身につくような指導内容や方法を授業の中に工夫し、ニーズを持った生徒たちが自己実現できるようにしていきたい。

平成15年度 甲府市心身障害児教育研究会委員

1	学識経験者	広瀬 信雄	山梨大学教育人間科学部 障害児教育講座教授
2	〃	飯野 桂	元甲府市立湯田小学校長
3	専門医師	瀧澤 保之	元市立甲府病院院長
4	〃	小尾 契子	前県立北病院精神科主任医長
5	学校関係	故 広瀬 東男	山梨大学附属養護学校副校長
6	〃	古屋 けさよ	甲府市立千代田小学校教頭
7	〃	渡辺 智	〃 富士川小学校教諭
8	〃	福岡 恵子	〃 新紺屋 〃
9	〃	井上 一恵	〃 湯田 〃
10	〃	池田 章	〃 伊勢 〃
11	〃	河野 美保子	〃 里垣 〃
12	〃	中山 亨子	〃 相川 〃
13	〃	宮本 順子	〃 玉諸 〃
14	〃	中林 文子	〃 大里 〃
15	〃	雨宮 瑞穂	〃 南 中学校教諭
16	〃	穂山 泰子	〃 北東 〃
17	〃	中込 なをみ	〃 北西 〃
18	〃	小野 一人	〃 城南 〃
19	福祉関係	五味 春雄	福祉部部長
20	教育委員会	中澤 正治	教育部部長
21	〃	渡辺 卓信	教育部次長
22	〃	日原 誠	〃 学校教育課課長
23	〃	小宮 山稔	〃 学事課課長
24	〃	松田 昌樹	〃 学校教育課指導主事
25	〃	小林 史	〃 〃 指導係嘱託



あ  
か  
る  
い  
花  
の  
よ  
う  
に

〈南中生徒作品〉

平成16年3月1日 発行

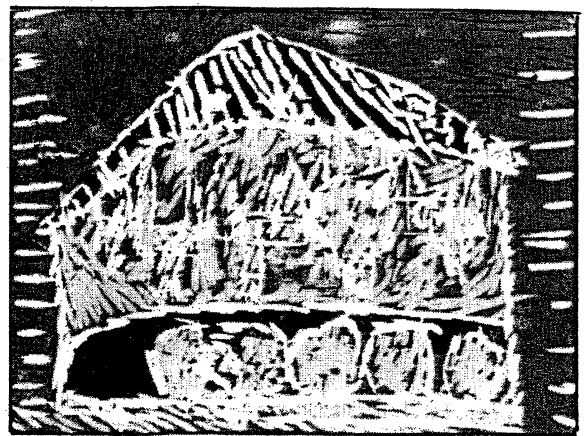
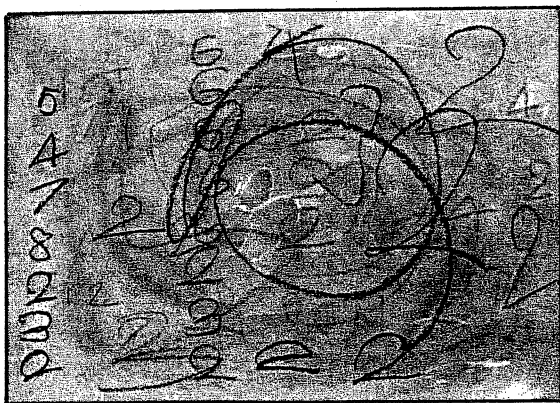
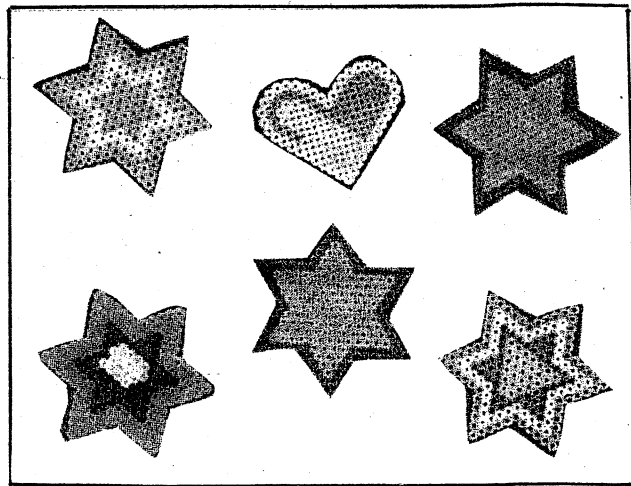
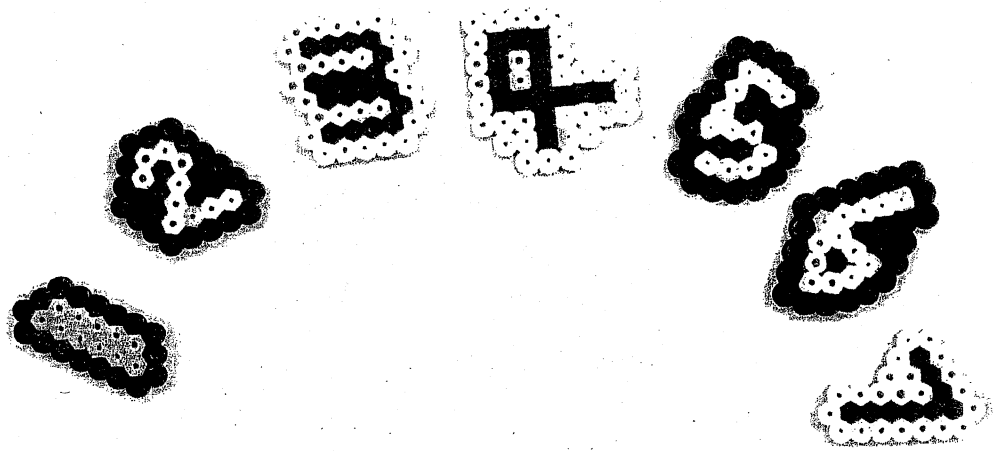
編集発行

甲府市教育委員会

学校教育課内 (TEL 223-7321)

〒400-0865 甲府市太田町10番1号

心身障害児研究会



〈湯田小児童作品〉